

## 地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護  
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護  
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成	年	月	日
事業所名				
ユニット名				
事業所番号				
記入者名	職名		氏名	
連絡先電話番号				

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		作りあげた時の気持ちを忘れないように、唱和をしたり、話し合いの時間を作っていきたい。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	理念は玄関に掲示し目につきやすいようにしている。事業所の都合で時間にゆとりがなくなってきてしまうことがあり職員の意識が足りない時がある。	理念にもとづいた支援がされているか確認することを職員間で習慣にしたい。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	玄関に掲示し見やすいようにしている。地域には運営推進会議を通して理解を求めている。家族には家族会で伝えてある。	家族に理解してもらっているかという自信がなく、今後は決められたメンバーだけでなく、多くの家族に運営推進会議に出席してもらえよう働きかけたい。
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	散歩の際には当たり前のことですが、挨拶をしっかり行うようにしています。挨拶から始まり顔馴染みになり畑の作物や花の話題になり、頂いたりしています。事業所の催し物（夏祭り、演奏会、演芸会、足湯、等）にお誘いしています。	近所の人から先に挨拶をしてもらえようになり、良い関係ができつつあると思うので今までの活動を続けていきたい。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	町内会に入会しており、町内会総代さんが月2回広報誌を持ってきてくれ、随時、町内で催し物がある場合は知らせてくれる。町内のお祭りでは子ども神輿、獅子舞が訪問してくれる。「敬老の日」には招待状が届き可能な限り参加している。	町内の清掃活動や子供会、PTA等の資源回収時の資源提供（現在、専門業者にダンボール等を回収してもらっている）で協力していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		<p>工夫はしていても、なかなか変化のない日常生活の中で、子供たちの笑顔や声で刺激を受けている。今後とも活動に協力していきたい。</p>
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>評価の事前説明会に職員が全て出席できないので理解度が違う。説明会に出席した管理者がしっかり理解し余裕を持って取り組んでいきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>		<p>会議で提案された事柄などを出席したメンバーだけでなく、グループホームに関わっている全ての人と共有できるようにしていきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		<p>特定の職員が関わるだけでなく、職員全体でそれぞれの機関の役割を理解し運営推進会議、等に積極的に参加していくようにしたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>制度を理解するため、勉強会に参加したり、疑問に思うことは有識者に尋ねたりしていく機会を作りたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>身体的なことで表面化することにとらわれがちになると思われるので兆候となる小さな変化にも対応できる観察力を養って行きたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12 契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解しやすい説明をするように心がけている。契約後、解約後であっても問い合わせは随時受けている。複合施設であるので総合受付窓口でも問い合わせは受けている。		全ての職員が契約内容について説明できないので、徐々にできるようにしていきたい。
13 運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コミュニケーションを大切にしています。言葉でうまく表現できない方には表情を読み、気持ち、感情を伝えられるようにお手伝いさせてもらっている。クレーム報告書があり運営者まで報告されるようになっている。		市からの派遣で介護相談員が派遣される制度があるので利用者が話す機会を多くしていきたい。
14 家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「グループホーム・リズムの便り」に「様のご様子」「こちらから伝えておきたいこと」を記して郵送している。状況の変化があった場合は随時、電話で報告している。家族から連絡があった場合も入居者に伝えている。		職員の移動はこれまで特別、連絡してこなかったのが心配、不審の材料になってきたと思われる。今後は「便り」に載せていきます。また離職、移動の無いよう魅力ある職場にしていきたい。
15 運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情連絡先を掲示してある。またメッセージ用紙があり鍵付きのボックスに投函することで、直接、経営者に届くようになっている。市から派遣されている介護相談員に入居者、家族の相談、意見を聞き取ってもらっている。		用紙で意見提出だけでなく、対面で意見交換が気軽にできる信頼関係を築くように努力していきたい。
16 運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間又は個人で、「企画申請書」「工夫と改善」を提出し、施設運営協議会(経営者、介護部門長、施設長、福施設長、各事業所管理者、リーダー)で検討し、実施に向けて役立てている。また職員から直接経営者へメッセージ用紙で意見が届くようになっている。		会議の議事録や報告が怠っていたりする場合があるので一方通行にならないようにしていきたい。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	毎月勤務表は作成されるが、状況により人数調整をするときがある。早出、遅出を設けたり利用者が全員参加で外出する時、大きな催し物があるときは、出勤者を多くしている		利用者3：職員1の割合では状況により調整することが難しい時がある。常に余裕がある人員配置であるようにしていきたいと思っています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職があり、そのため異動があり、利用者が落ち着かない状況の時があったが、現在、随分落ち着きを取り戻している。経験の豊かな職員が不安定な時をサポートしてくれている。		職員にとって魅力ある職場にするために、一部の職員だけに負担がかからないように、新人教育や研修に参加し不安が取り除けるような取り組みをしたい。
<b>5.人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間教育訓練計画、一ヶ月ごとにテーマを立て勉強会を実施している。また随時、外部より研修案内があった場合はシフト調整して積極的に参加している。運営者は教育に熱心であり自ら資格を積極的に取得している。社員に資格を取得すると「報奨金」を出してくれる。		理解のある運営者の姿勢を見習うと共に専門性を養うために研修を積極的に受けていきたい。
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	二ヶ月に一度、市内のグループホームが集まり部会が開催され参加している。前もって議題を提案し意見交換をしている。テーマが決められ勉強会、講演会が開催され参加している。また随時、現在、困っていることなど出し合い、検討している。		同じ職員が出席することが多いので、可能な限り全ての職員に順番に出席できるように勤務の調整していきたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤続年数により、泊りがけ、日帰り旅行が会社より与えられる。また、花見、花火見物、食事会が開かれている。日常ではなかなか休憩時間が確保されないで、少しの時間でも一人の時間が取れるようにグループホームの一画にカーテンで仕切りを作り休憩場所を確保してくれた。		ほっと生き抜きできる時間を作る工夫を職員自身で
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	「工夫と改善」で提案すると、その内容によって社長より報奨金が出される。また努力や実績により「挑戦賞」「飛翔賞」「好評賞」などがあり表彰と金一封が出されている。		励ましの言葉や労いの言葉が自然に出てくるような雰囲気職場であるように努力していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前の面談時は本人と家族とは別に行っている。入居に関して家族から事前に説明を受け、本人が、納得しているケースは殆どない。初回は面談シートに沿っただけのものになるが、回数を重ねると、いろいろな話題が出てくることが多い。傾聴、受容の姿勢に努めている。</p>	<p>入居前の面談では家族との面談時間のが多く、本人との時間が少ない傾向になっている。本人との時間をもっとおく取るように心がけたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>認知症に対する不安や今後の家族が本人にどう接していくかなど聴く時間、相談時間は多く設けている。</p>	<p>相談を求められた時だけでなく、職員から声を掛けられるような信頼関係を築いていきたい。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>契約前にグループホームのあり方、役割りを説明させてもらい、また可能な限り本人の状況、家庭環境を把握しその上でグループホームが現時点で適しているのに対応している。結果、他サービスを紹介する場合がある。</p>	<p>職員が他サービスの情報収集を積極的に行うようにしていきたい。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>何度でも見学をしてもらえる機会を設けている。空室がある場合は体験入居(希望者)ができる。</p>	<p>入居時は家族の入居したほうが良いとの思いが強く、利用者本位ではないことがある。家族に暮らす場所が変わることの大変さを理解してもらえるように家族との時間を多く取って行きたい。</p>
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>「人生の先輩方に教えて頂く」を職員は念頭においています。毎日の生活の中で「知恵」を頂いています。</p>	<p>本人ができることを減らさないように、常識や合理性を押しつけないように今後も続けて行きたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	相談、連絡をしっかりと行うことにより、グループホームでの暮らしを理解してもらう努力はしている。職員ではどうしても対応困難な場合は、家族に電話をし、時には訪問してもらい話しをしてもらっている。時には職員がケアの工夫を教えてもらったりしている。		利用者の帰宅、家族の訪問の回数を多くするようなきっかけを作って行きたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	グループホームの便りを郵送し近況報告をしている。催し物の案内をし、「ご家族、皆さんお誘い合わせの上、おこし下さい。」と伝えている。		疎遠になっている家族の訪問できない理由や利用者との関係をプライバシーを守りつつ知る努力をしていきたい。解決策を探していきたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホームへの訪問は家族以外の方も制限なく来てもらっている。現在は、懐かしい人に会いに行ったり、懐かしい場所にでかけることはできていない。		団体で外出することはあっても、一人で職員と共に懐かしい場所に出かけることがないので、(買物等には行っているが) 日常の会話の中で出た話を記録し、それを基に実施していきたい。
31 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入浴準備で下着の種類が分からない人には、他利用者で仲の良い人が手伝ってくれたり、日常生活の中で所々で見られる光景である。利用者の相互関係がうまくいくように支援している。		職員が声をかけるより他利用者から誘われたほうが活動してもらえるきっかけが多くなるので、いい関係が保てるようにしていきたい。いい関係を作り自発性低下を防いで行きたい。
32 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	地域の事業所は利用している人、その家族だけが利用できるだけでなくこれからの利用また退去した人、地域で介護で悩んでいる人が相談できる場所であることを伝えている。		開放的で親近感が伝わるような雰囲気を作り、気軽に相談をしてもらえるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>コミュニケーションを大切にし、その中で希望、意向は可能な限り叶えられるように努めている。困難な場合は担当者会議などの話し合いの場でのテーマに上げ検討している。</p>	<p>柔軟な対応ができるように、職員数を増加していきたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時の面談で、できる限り、知るように努めているが、入居後、利用者、家族、職員間で話をしやすい関係が少しずつではあるが築き上げられてくるので、新しい情報などは記録に残し、職員が共有し日々の生活に役立てている。</p>	<p>会話の中で新しい発見や家族との話の中で新しい気づきがあれば記録に残していきたい。記録した職員だけが理解しているだけでなく全ての職員に伝えられ生かされる記録にしていきたい。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>職員が問題ばかり注視すると、利用者の意欲は損なわれてしまう可能性が大きいので、「できない」より「できる」ことを見つける視点で対応している。</p>	<p>「できること・できないこと」「支えて欲しいこと」のシートを利用し職員が共通認識で対応していきたい。</p>
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当者会議を定期的開催している。問題が生じた場合はその都度開催している。毎日、接している職員からの思いだけではなく、他事業所の職員からアドバイスを受けることができ介護計画の作成に役立っている。</p>	<p>家族が参加してもらえるように、時間の都合をつけるようにしていきたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月または6ヶ月毎の見直しまた途中で状況の変化が生じた場合はできる限り早く見直しをしている。モニタリングは必ず毎月行っている。</p>	<p>机上だけのものにならないようにしたい。利用者本位であることを忘れないようにしたい。</p>



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の「状態の変化」「支援の内容」「生活状況」など記入し、支援に関する重要な資料にしている。また現時点の事象の報告に限らず、利用者や家族からの要望や意見を記録に残すことにより、利用者のニーズが把握できるように役立てている。		職員が協力して利用者に対して楽しく生き生きと潤いのある生活が立証されるような丁寧な記録を残して行きたい。
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	複合施設であるので、他事業所との交流がある。夏祭り、運動会、そうめん流し、バーベキュー、ボランティアによる演芸、演奏会、等に参加し他事業所の利用者、職員と交流が持てる。家族の状況に応じて受診の送迎を行っている。		入居時と現在を比較してみると状況は変化しているのでその都度、ケアマネジャーが中心になりカンファレンスをおこない支援方法の見直しをしているので、これからも変化を見逃さず続けていきたい。
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	同じ地域の中にグループホームが存在することを多くの人に知ってもらうために、催し物の案内をしている。届け出のない入居者の外出があった場合、いち早く捜査してもらえるように駐在所にはお願いしてある。消防署には救急蘇生や応急処置の講習会、消防、避難訓練の依頼をしている。		協力をしてもらっただけでなく、こちらからも協力できるような関係を築き上げていきたい。こちらからの行事案内だけでなく、町内会の催し物を年間の計画に取り入れて積極的に参加していきたい。
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前に關っていたケアマネジャーとは入居後、関りがなくなっているのが現状です。入居後はグループホームのケアマネジャーとの関りになっています。利用者が入居前のかかりつけ医療機関との連携はとるようにしている。		職員がいろいろなサービスの種類、内容、等を知り利用者に情報提供ができるように知識を身につけていきたい。
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	職員が地域包括支援センターの役割の内容について理解していないので協働というレベルに達していないのが実情である。		地域密着、包括支援、等の役割の内容について有識者による勉強会を開催する必要がある。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望を聞いている。入居後も引き続き同じ医療機関を利用している人もいる。入居時には以前受診していた、かかりつけ医より、医療情報、薬剤情報等の情報の提供を依頼している。提供された情報は協力医に提出し、今後の受診に役立てている。		入居後も引き続き同じ医療機関で家族と一緒に行けない場合は事業所で送迎の支援をしている。
44 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医に心療内科があり隔週で往診してもらっている。受診の際は、入居者との面談を重視してもらい医師との面談時の表情はたいへん、穏やかで信頼関係が築かれている。職員の質問にも気軽に対応してもらっている。		専門医の往診は利用者でのみならず職員にとっても安心できることなので今後も実施していきたい。
45 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	いつもと違う変化が見られた時は、同敷地内のほか事業所の看護師に依頼し様子を観察してもらえ。夜間は電話対応で相談し指示を受けられる看護師の当番がある。全体朝礼では各事業所の入居者の健康状態が報告され全事業所職員が情報を共有している。看護師による勉強会が開催され参加している。		看護師に依存するのではなく、信頼関係が保てるように情報の共有化をしていきたい。勉強会には積極的に参加していきたい。
46 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	介護サマリーを提供し依頼された情報は可能な限り提供している。入院中は定期的に病院に訪問し関係者から状況を聞いてくるようにしている。家族とは面談や電話でやり取りし話し合いの場を設けている。		退院時の状態を職員全員が把握しスムーズな受け入れができるように徹底したい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時、家族会の席でグループホームの方針を説明させてもらっている。随時、家族より相談があれば話し合いの席を設けている。協力医と相談し住み替えの適切な場所のアドバイスをもらっている。		現状、契約時や家族会での説明では不十分であり、今後は協力医に家族会等に参加してもらったり、専門家の意見を聞く機会を設けていきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在、該等者がいないが、今後、必ず変化は起きてくるので職員間で話題になったりするが、計画的に進められてはいない。		協力医と職員との、具体的な支援の方針の確立させ、家族への説明をおこなっていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>職員、家族、関係者の話し合いはできていても、本人との時間が多く取れていないので納得してもらえるような話ができる時間を設けていきたい。</p>
<p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>信頼関係が馴れなれしさにならないように、決められたルールの確認、見直しをしていきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		<p>馴れ合いになってしまい、職員は支援しているつもりでいることがあるかもしれないので、担当者会議等で職員自身の支援の振り返りをしていき利用者への対応を見直していきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		<p>日課表、予定表があり計画が立てられていても臨機応変に対応できる支援をしていきたい。言葉で伝えられなくても、表に見えない心の動きまで読み取る努力をしていきたい。</p>
して			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>衣類を着替えることが機能回復にもつながり時間がかかってもなるべく自分でやってもらうようにしていきたい。「おしゃれ」は生きていく上で「はり」のある生活につながると認識していきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	初めから終わりまでは、なかなかできていないが、できる場所(材料を切る、むく、味付け、洗う、拭くなど)は、声かけしながら行っている。		食事を同じテーブルで食べることは今後も続けていきたい。食事作りは職員の都合で利用者が参加していない場合が多い。参加できない原因(職員数、台所の面積等)を探り、少しの工程でも参加してもらうように支援していきたい。
55 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	手をつけていない料理や食材に対しての好き嫌い調査、食べたい物の意見を聴いたり、工夫するように努めている。買い物に出かける際には、希望を聞くようにしている。以前にビールを飲まれていた方には、夏祭りやバーベキュー、お正月などのイベントの際に飲んでいただいている。		栄養価だけにとらわれないで柔軟な対応をしていきたい。
56 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮しながら声かけや誘導を行っている。夜間は、その時の体調にもよるが、定時の声かけ、誘導を行い、リハビリパンツやパット交換を行っている。		入院をしてオムツ使用になって帰ってきた利用者に対して以前のようにリハビリパンツにすることができた。今後もオムツ「0(ゼロ)」の支援をしていきたい。
57 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の意思確認は必ず行っている。毎日入浴される利用者の方以外は、拒否をされても週2回は入っていただいている。仲の良い利用者同士で入られることもある。当施設の大浴場で入浴される方もいる。		清潔にするだけが目的とせず、ゆったりとリラックスができる時間にしていきたい。
58 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりのリズムがあるので、就寝時間は決めていない。日中は居室へ戻らなくてもゴロツと横になれるように、フロアのソファや畳コーナーを設けている。日中は心地良く疲れていただけ、夜間に可能な限り睡眠がとれるように心がけている。		今後も職員の都合で利用者の生活リズムを変えることのないようにしていきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	基本的には「利用者本位」ではあるが家事(掃除、料理等)、趣味(刺し子、わらじ作り、畑仕事等)、脳トレーニング(計算ドリル、漢字書き取り、音読等)またボランティアさんによる各種イベント(民謡、大正琴、ピアノ、ヴァイオリン、マジック、フラダンス等)に参加している。		職員が入居者の生活歴を今以上に知る必要があり、本人、家族とのコミュニケーションの時間を多く取っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物をした時など、お金を持ってもらい支払いをしてもらう。本人管理でのお金所持はないのが現状である。		入居者の力に応じてお金を所持し、使うことによる、効力を職員が理解し、家族にも理解してもらえるようにしていきたい。
61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外気浴を兼ねての散歩は日課に取り入れている。食材の買物に出かけている。同敷地内の他事業所に出かけコーヒーを飲んできたりする。一人で近所のお寺まで散歩に行く人もいる。		職員からの誘いではなく本人からの要望が生かされる環境(時間、職員数等)を整えていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族との外出、外泊は制限されておらず、泊りがけで家族と食事をしたり、美容院、かかりつけ医に行ったりしている。グループホームで計画を立て団体でテーマパークへ出掛けたりしている。		団体行動が多く、個別の支援がまだまだできていないのでコミュニケーションの時間を多くして一人ひとりの思いを聴きだせるようにしていきたい。思いを少しでも叶えてあげられる余裕を持っていきたい。
63	電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族より制限がない限り電話は自由に行える。手紙は家族より届いたら直接渡し返事を書くように声掛けしている。家族より手紙が来ない、訪問のない利用者には季節の便りを出すように勧めている。		自由とは言え、回数は少ない状況なので家族の協力を得て、交流が途切れることのないような支援をしていきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間は設定してあるが柔軟に対応している。家族が仕事帰りでも寄ってもらえる。訪問されたら、同敷地内の他事業所にお茶を飲めるスペースがあるのでゆっくり過ごすことができる。他事業所と共有であるが足湯の設備があるので利用者、家族が共に利用することができる。		家族により訪問が多かったり、少なかったり(殆どない)する。訪問が多い家族が少ない利用者には気兼ねをしないような気配りをしていきたい。自分の家族でなくても、もてなす気持ちを持てるような気分になれるように支えていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアル(具体的な行為記載)がありケアに生かしている。他事業所との全体朝礼で折に触れ社長、管理者が事例を基に話しがされている。グループホームでのミーティングでは議題に取り上げ学習している。		やむを得ない場合があったとしても、必ず代替案を出し職員全員で検討し、決して事業所側の状態、都合にしないことを徹底していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各居室は鍵をかけない。夜間は利用者が、かける場合がある。玄関はセキュリティーが、かかっているため常に開放していないが、日中は何度か解除して畑、テラスへの行き来をしている。		利用者にグループホームでの生活が充実するよう支援し、職員との信頼関係を築き自宅と変わらない生活ができ、「帰りたい」気持ちが少しでも和らぐようにしていきたい。
67 利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間、居室での就寝時には時間を決め巡回している。日中、いつもと違う変化のあった入居者には特に気を配るようにしている。居室で過ごす時間が多い入居者には10時、15時のティータイム、三度の食事は食堂でと、声掛けをしている。		入居者の生活リズムを把握し、自尊心を傷つけることのない見守りをしていきたい。
68 注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫道具を自分で持っている人もいる。何を持っていて、いくつあるのか職員が把握している。共有のものは特別のところへ管理しないで自由に使用できるようになっている。数だけは職員が把握している。包丁、洗剤は夜間職員が少なくなる場合、鍵のかかる所に保管している。		生活の場であるので管理ではなく、一人ひとりの状況に応じた対応を心がけていきたい。
69 事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時の対応及び観察項目・基本対処マニュアルに沿って行動している。ヒヤリ・ハット報告があった場合は、対応策を考え今後に生かしている。		状況説明がしっかりできる記録がとれるような取り組みをしていきたい。
70 急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応及び観察項目・基本対処マニュアルに沿って行動している。救急蘇生の講習会を消防署に依頼して開催している。外部研修会に参加している。内勉強会は看護師が担当しマニュアルの確認を行っている。		全ての職員が対応できるように技術を身に付けていきたい。
71 災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練の実施がある。緊急時マニュアルがあり、避難経路、緊急時の電話のかけ方の掲示がしてある。地域には推進会議を通じて理解を求めている。		協力してもらっただけでなく、協力できるような関係を築いていきたい。夜間の避難訓練をおこなってほしい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時の面談記録、入居後の介護記録、ヒヤリ・ハット報告書を参考にし具体的な再発防止策を考え介護計画に取り入れ家族に話をしている。		同じ事柄であっても「危ない・危険」と感じる職員とそうでない職員があるので共通認識をしていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックは毎日欠かさず行っている。数値だけでの判断だけではなく本人からの訴えや職員が観察し普段との違いにも気をつけている。職員の勤務が交代する時には少しの変化でも申し送りをするよう心がけている。緊急時には他事業所より応援をしてもらえるようになっている。		観察する力を養うために、勉強会等に積極的に参加していきたい。
74 服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	発行された薬剤情報は全て確認するようにしている。疑問に思うところがあれば、同会社経営の薬局があるので薬剤師に気軽に質問、相談できるシステムになっている。協力医は内科(毎週木曜日)、心療内科(隔週金曜日)に往診があり相談することができ、随時、電話でも対応してもらえる。		相談、質問しやすい環境に恵まれているので支援にいかして生きたい。
75 便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	状況に応じて水分摂取の調整、飲み物を野菜ジュースや乳酸菌飲料にしている。時々、おやつにヨーグルトやバナナを出し便秘対策をしている。体を動かすこととして日課に朝は掃除、散歩を取り入れています。		散歩をしているが、運動量は少ないので、その日の体調を見ながら、もう少し増やしていきたい。
76 口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声かけをして行ってもらいます。介助が必要な人には手伝っている。自分でできる人にはもう一度声かけをして確認をとっている。就寝時、入れ歯洗浄を行っている。必要であれば歯科の往診を依頼することができる。		毎食後の口腔ケアは面倒に思う利用者もいるが、良い習慣は続けていきたい。
77 栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録に食事摂取量、水分摂取量を記録し状態を把握している。食事は献立表を作成し栄養バランスに気を配っている。食事形態は口腔状態、嚥下、咀嚼、体調の状態により大きさ、柔らかさ等を変化させている。		栄養バランスには引き続き気を配っていきたい。また季節の物を食卓に出したり、家庭菜園でできたものを料理したり、食器を変えてみたりして「楽しみ」のある食事風景にしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防対策マニュアルがあり、それに従い実行している。うがい、手指消毒の励行は基本としている。殺菌エアータオルやウエルパスを使用している。状況、場合によってゴム手袋を着用することがある。		複合施設なのでグループホームで発生しなくても、他、事業所で発生する可能性があるため、利用者、職員共に感染予防を怠らないようにしていきたい。
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具(包丁、まな板等)はよく水洗いし、熱湯をかけ使用しない時はよく乾燥させておく。また定期的にキッチン用漂白剤を使用している。冷蔵庫は食材が取り出しにくくなり、温度も上がってしまうので詰め込みすぎに注意している。賞味期限には気を配っている。		季節を問わず衛生には気を付けて行きたい。利用者も台所を利用するので利用前、後には衛生の確認をしていきたい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	複合施設であることから、総合窓口、正面玄関があるが、これとは別にグループホーム専用の玄関があり、訪問時にチャイムが押せるようになっている。家庭的な雰囲気になくづくように工夫をしている。		建物の外観が施設というイメージが強いので周辺を飾る物、設置する物に気を配っていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	散歩に出かけた時に摘んできた花や木の実を飾ったり、手作りカレンダーを掲示して季節感を感じている。季節ごとの行事に参加した写真を掲示し話題作りをしている。入居後混乱が少ないように、共有の空間は自宅と比べ特別に変わった物は設置しないよう心がけている。		季節のしきたり、習慣は人それぞれなので、利用者のライフスタイルを尊重していきたく。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は全て個室である。共有フロア兼食堂には二人がけのソファーやごろ寝ができる畳コーナーがある。敷地内の芝生にベンチが設置され仲よし同士で座り、歌を口ずさんでいる風景がある。		利用者の性格、その日の気分、状態により心地よい場所が提供できるように工夫していきたい。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはベッド本体以外は今まで自宅で使い慣れた物を引き続き使用するように家族にお願いしている。居室の整理整頓は基本的に利用者本位の使い勝手のよさを重視している。		合理的で割り切るだけの押し付けや勝手な変更は行わず、本人のやり方を尊重していきたい。
84	換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日課の中に部屋の換気を取り入れている。エアコンは各居室に設置しており個人の状況に合わせた温度調整ができるようになっている。共有空間はその日の気温に留意し調整を行っている。		換気、温度だけでなく開放感のある空間にしていきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差は最小限で少なくしてある。玄関以外の扉は引き戸になっており安定した姿勢で開閉できるようになっている。共有の空間の設置が可能な場所には手すりを取り付けている。		手すりが取り付けられているが画一的なものであるため今後、取り付けの場合は可能な限り個々に合わせていきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日常生活の中で出来る限りのことは自分でしてもらおう。その中で「できること・できないこと」を記録し支援方法を考え、職員が共通認識の上で、できない部分をサポートしている。		常識や合理性を押し付けることなく希望や意思を引き出し「できること」を減らさない関わりを続けていきたい。
87	建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベンチ、テーブルが設置され、お茶や談話が楽しめる外気浴ができる。芝生の広場では季節ごとの行事(夏祭り、運動会、そうめん流し、等)に他事業所の利用者と参加している。		複合施設の利点を十分生かした生活が送れるように支援していきたい。他事業所の利用者、職員との交流も積極的に行っていきたい。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目			
項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者の
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいの
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="checkbox"/>	毎日ある
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度ある
		<input type="checkbox"/>	たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族と
		<input type="checkbox"/>	家族の2/3くらいと
		<input type="checkbox"/>	家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「なんぶの郷」はグループホームを含め4つの事業所が集まった複合施設である。複合施設の利点を活かし、合同のボランティアさんによる催し物(化粧療法、フラダンス、ハーモニカ、大正琴、ピアノ&バイオリン、二胡、コーラス、和太鼓、民謡、等)や季節の行事(誕生日会、夏祭り、クリスマス会、バーベキュー、流しそうめん、餅つき等)に参加することができ、他事業所の利用者、職員との交流が生まれる。立地的に小学校が近くにあり登下校時には子供たちの声が聞こえ活気のある時間になる。子供たちとの交流も行い、昔の遊びを一緒におこなってもらったりしている。入居者もこの時は職員が見たことのない表情をしてくれる。地域の方に「なんぶの郷」のグループホームを知っていただくために、また気軽に訪問してもらうために催し物のお誘いを日課の散歩のときに伝えている。地域の方が通行される通行される道路に設置してある掲示板にも「お知らせ」として掲示している。グループホーム内での暮らしの支援として職員は、「自分が同じことをされたらどうだろう・・・?」を常に思い利用者の人格を尊重しプライバシーや誇りを損ねるような対応を行わないようにしている。特に「さりげない介護」「本人が思っている<現実>を否定しない」態度に心がけている。